

重点改革項目Ⅲ 持続可能な財政運営の確立

大項目	地方公営企業などの経営改革				No.	72	
中項目	病院事業の経営改革の取組強化				担当課	市民病院 経営企画課	
具体的な改革項目	収益の確保と適正な費用による経営の健全化						
現状と課題 (これまでの取組)	平成22、23年度と黒字化を達成したが、精神科病棟の設置や医療機器の更新などによる各種経費の拡大が見込まれる中、地域の基幹病院としての役割を果たしつつ、収益確保と適正な費用による、より一層の健全経営を進めなければならない。						
改革実施概要	改革の目的、考えられる効果	・安定した財務基盤を築くことで、高度、先進、専門を中心とした質の高い医療を将来にわたって提供する。					
	取組の内容	・適切なベッドコントロールによる高い病床利用率の維持 ・医療材料を主とした運用と交渉などによる適正な費用の維持					
	取組工程 (具体的な内容)	現状	平成25年度		平成26年度		最終目標／ 27年度以降
		計画	実績	計画	実績		
	・病床利用率は高く推移しており、これ以上の向上は患者受入体制に影響を及ぼす ・医療材料費等は収入の増加に伴って増え、施設や機器の点検増等で他の経費も増加傾向 ※以下は24年度予算による値	・ベッドコントロールを適切に行い、計画上の病床利用率を維持する ・医療材料費に係る価格交渉と運用方法の見直しを行う	・適切なベッドコントロールによる病床利用率の維持 ・医療材料費の価格交渉と運用方法の見直し	・平成25年度計画による取組を継続するとともに、必要に応じた対策の見直しを図る	・市民病院中期計画による取組の継続 ・病床利用率の維持 ・医療材料費の価格交渉と運用方法の見直し	・平成27年度以降も継続して収益の確保と適正な費用の維持に努める ※以下の指標値は市民病院中期計画の最終年度である平成29年度の値	
指標	経常収支比率	98.0%	98.1%	102.4%	97.7%	100.4%	100.2%
	病床利用率	93.5%	93.5%	93.2%	93.5%	91.0%	93.5%
	材料費対入外収益比率	30.6%	30.6%	30.6%	30.2%	31.9%	29.0%

(各年度10月、年度終了後に実施)		平成25年度		平成26年度		
進捗管理	取組の状況	上半期 (4～9月)	・病床利用率の維持 92.8% (9/30時点) ・医療材料費などの適正な費用の維持 材料費対入外収益比率 30.0% (9/30時点)	予定通り 進捗	・病床利用率の維持 89.0% (9/30時点) ・医療材料費などの適正な費用の維持 材料費対入外収益比率 32.0% (9/30時点)	進捗に 遅れあり
		下半期 (10～3月)	・病床利用率の維持 93.2% ・医療材料費などの適正な費用の維持 材料費対入外収益比率 30.6%	進捗に 遅れあり	・病床利用率の維持91.0% ・医療材料費などの適正な費用の維持31.9%	進捗に 遅れあり

(年度終了後に実施)		平成25年度		平成26年度	
年度評価	取組工程、指標に対する評価	他の指標では計画を上回ることができたが、病床利用率は計画値を下回った。 収益確保と適正な費用の維持による効率的な病院運営に取り組んだ結果、4年連続の黒字となった。	C	他の指標では計画を上回ることができたが、病床利用率は計画値を下回った。 しかし、診療報酬改定への適切な対応や適正な費用の維持に努めた結果、経常収支比率は指標を上回ることができた。	C
	課題、今後の方針、改善事項など	・収益確保と経費の効率化の継続		・収益確保と経費の効率化の継続 ・消費税の影響 ・診療報酬改定への適切な対応	

(平成26年度上半期終了後に実施、下半期終了後に最終確定)		総合評価		平成27年度以降
計画期間の評価	取組工程、指標に対する評価	病床利用率について指標を達成できず、収益の確保に課題が残ったが、費用面では努力の成果が出たと言え、経常収支では現状及び指標を上回ることができた。	C	地域医療構想などを踏まえた当院の今後を整理したうえで、引き続き収益の確保と経費の効率化による経営改善に努める。
	課題、今後の方針、改善事項など	<ul style="list-style-type: none"> ・収益確保と経費の効率化の継続 ・消費税の影響 ・診療報酬改定への適切な対応 		